

押し相撲の名大関 栃光正之



本市深海町出身の元大関「栃光」が亡くなって今年で30年。この節目の年に当たり、栃光を顕彰するため、ドキュメンタリードラマが制作されたほか、12月4日(火)には大相撲天草場所が牛深総合体育館で開催されます。

今回、栃光の輝かしい功績や、9月に行われたドラマ撮影の様子などを紹介します。

なお、現在、大相撲天草場所の入場券を販売中です。詳しいことは、大相撲天草場所実行委員会事務局(牛深商工会議所内) ☎ 093141へお尋ねください。

大相撲への憧れ

押し相撲の名大関といわれた栃光正之(本名・中村有雄)は、昭和8年8月、牛深市深海町(現・天草市深海町)に生まれました。中学生のとき、巡業で天草を訪れた横綱・栃錦を見て大相撲に憧れ、昭和27年、18歳のとき上京し、春日野部屋に入門します。

順風満帆な入門当初

当時の春日野親方は、押し相撲の大横綱といわれた栃木山。親方から「栃光」と四股名をつけてもらい、押し相撲の基礎を徹底的に学びます。20歳の若さで十両入り。昭和30年3月場所では、大相撲史上初の十両15戦全勝優勝。翌5月場所、東前頭13枚目に新入幕を果たしました。

大関昇進への試練

その後、関脇まで昇進したものの、じんましんに悩まされ、三役と幕内上位を往復することとなります。

しかし、栃光はあきらめることなくけいこに励み、昭和

37年5月場所、柏戸、大鵬の両横綱を制し、ついに大関に昇進しました。熊本県出身の大関誕生は、不知火光右衛門以来、100年ぶり。栃光28歳のときでした。

真実一路・待ったなし

得意の押し相撲で白星を重ねましたが、昭和41年1月場所、横綱・柏戸との取組で右ひざを負傷。3場所連続で負け越して大関から陥落し、引退しました。

その後、年寄・千賀ノ浦を襲名し、後進の指導にあたりていましたが、昭和52年3月、直腸がんのため死去。43歳の若さでした。

現役生活15年間で、幕内在位60場所(大関在位22場所)、殊勲賞3回、敢闘賞2回受賞。相撲にかける真摯な思いから、現役時代に一度も「待った」をしなかった栃光は、力士の鏡と評され、今なお、名大関としてファンに愛され続けています。

ドラマ「押し相撲の名大関 栃光正之」の撮影を実施!



十五社宮(栖本町)

戸の崎漁港(下浦町)

栃光関のドキュメンタリードラマ「押し相撲の名大関 栃光正之～真実一路・待ったなし～」が10月28日、制作したテレビ熊本などで放送されました。このドラマの撮影は、9月19日から同23日にかけて、栖本町の十五社宮や下浦町の戸の崎漁港などでも行われ、栃光の母親役の朝加真由美さんらとともに、多くの市民の皆さんがエキストラとして出演されました。

また、ドラマの制作に合わせて「天草ちゃんこ」の開発も行われ、ドラマのナビゲーターを務めた畑正憲さんも、トマト味などのちゃんこ鍋に舌鼓を打っていました。